

HD事業
TSI中国
中

15%増収見通し

13年「M・ツボミ」が寄与

【上海支局】TSIホールディングスの現地法人3社による中国事業は、13年1～12月の現地通貨ベースの店頭売上高が前年比15%増と大幅増収を達成する見通しだ。高級婦人ブランド「M・ツボミ」の好調が寄与し、1～9月累計で13%増

となり、そのほかのブランドも夏物から回復し始めている。中国では景気減速や店舗過剰でファッションブランドは厳しい環境だが、TSIホールディングスは今後「M・ツボミを軸に中国事業を拡大する」方針だ。TSIホールディングスは、

東京スタイルの上海東之上時装商貿、サンエー・インターナショナルの上海贊英時装、M・ツボミを販売する北京子苞米時装の3法人が中国でブランド事業を展開している。日中関係悪化の影響もあり、昨年から厳しい状況になったが、今年1～6月は中国事業全体で現地通貨ベースの店頭売上高が前年同期比11.6%増となった。既存店ベースでも10.1%増。M・ツボミが18.7%増と大幅増収だったことが貢献した。同ブランド

は1～12月で前年比20%以上の増収を見込む。

M・ツボミは「ファッションの独自性が支持され、売上が高に結び付いている」ことが好調の要因とみる。デザインに独自性があるため、顧客はコーディネートする商品を購入する傾向が強く、客単価を押し上げている。「販売員教育や店頭ディスプレイなどの戦略の一貫性」も好調を支える。

M・ツボミの店舗数は直営65、代理商経由41で計106店。9月には上海の港匯広場に旗艦店を出し、売れ行きは順調という。中国北部に店舗が多いが、「南への広告塔」とも位置付ける旗艦店の開設を機に、出店地域を広げていく考え。また、今後、M・ツボミで新業態

の開発を計画している。

そのほかのブランドの多くも7月ごろから復調している。婦人服は今夏、ドレスの供給量を確保し、売上高を底上げた。秋物の出足も良いという。

TSIホールディングスは現在、海外市場に進出させるブランドの基準を策定する作業を開始している。今後、その基準をもとに中国を含む海外でブランドのポートフォリオを確立していく考えだ。